

テーマ：ロイター短観（2012年4月）**発表日：2012年4月19日（木）****～製造業DIは改善が一旦足踏みも、先行きの期待感は強まる～****第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 大塚 崇広
TEL：03-5221-4525****○製造業DI：改善期待は持ち越し**

4月ロイター短観（調査期間3月30日～4月16日）の製造業DIは+1とプラス圏を維持したが、前月（+2）からやや悪化した。足元の景況感としては改善が足踏みとなったが、3ヶ月後の見通しは+6と先行きの期待感は強まっており、改善期待が持ち越される形となった。

内訳を見ると素材型と加工型で明暗が分かれた。素材型は▲6と前月（+4）から悪化し、2ヶ月振りにマイナス圏に転じた。化学（3月+5→4月+5）を除いたすべての業種（繊維・紙パルプ、石油・窯業、鉄鋼・非鉄）で悪化している。コメントには「欧州および新興国景気の停滞と為替変動、原油・電力等のエネルギーコスト上昇により収益環境が不透明」（鉄鋼・非鉄）とあり、原油高が収益を圧迫することへの懸念があるようだ。また、円安で輸出環境が改善するとの期待感はあったものの、需要の停滞が景況感を下押ししたものとみられる。

一方で、加工型は+6と前月（0）に引き続き改善した。食品、金属・機械、精密・その他が上昇し、全体を牽引した。輸出環境の改善と底堅い内需が好感されたようだ。他方、電機（3月▲8→4月▲9）と輸送用機械（3月+27→4月+15）は前月から悪化した。電機は3ヶ月後の見通しと併せてみれば底打ちの兆しがみられるが、輸送用機械は見通しを含めても改善ペースが息切れしていることが窺える。

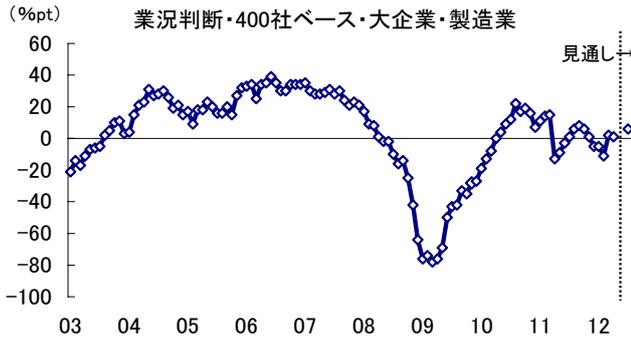
このように、製造業DIは、加工型で輸出環境の改善や内需の底堅さが好感された一方で、素材型で原材料高や実需の回復感が乏しいことなどが懸念され、全体としては改善が足踏みとなった。ただし、3ヶ月後の見通しは素材型、加工型ともに改善が見込まれており、復興需要の本格化や海外経済の持ち直しで輸出が増加していくことなどへの期待感が強まっているものとみられる。

○非製造業DI：復興需要を背景に堅調に推移

非製造業のDIは+10と前月（+5）から一段と改善し、2007年12月以来の水準まで回復している。東日本大震災の復興需要が全体を押し上げているものと考えられる。

内訳を見ると、不動産・建設（3月▲16→4月+10）が復興需要を背景に大幅に改善し2007年10月以来のプラス圏に浮上した。その他サービス（3月+24→4月+42）も大幅に改善し、堅調な内需の様子が窺える。一方で、卸売（3月+17→4月+6）と小売（3月0→4月▲15）はともに悪化した。卸売と小売は振れが激しいことから、次月の結果と併せて見る必要があるだろう。

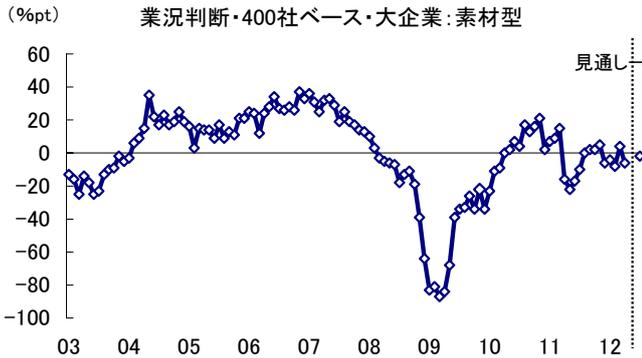
足元ではサービス消費や復興需要を支えに非製造業の業況判断は良好さを保っている。先行きについては、雇用や所得が回復感に乏しいことから復興需要を除いたベースの内需には不透明感が強いが、復興需要の本格化が全体を押し上げるであろう。非製造業DIは引き続きプラス圏での推移が予想される。



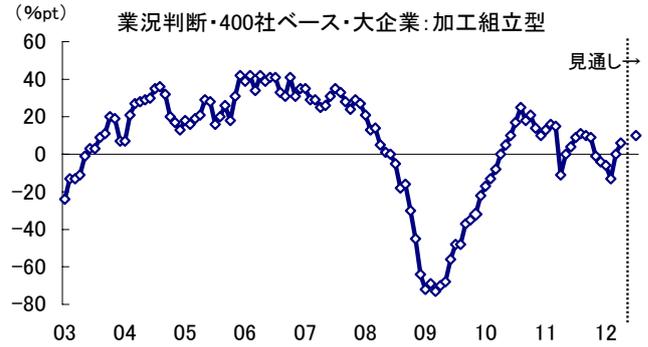
(出所)ロイター「ロイター短観」



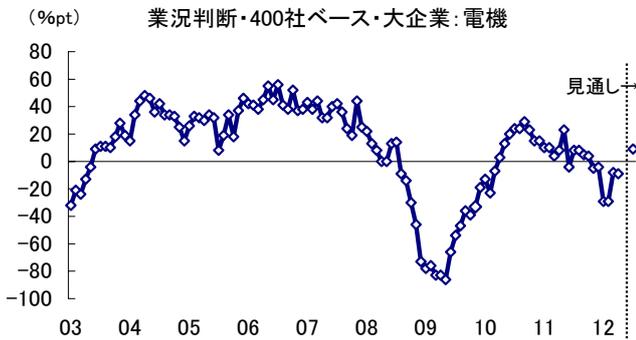
(出所)ロイター「ロイター短観」



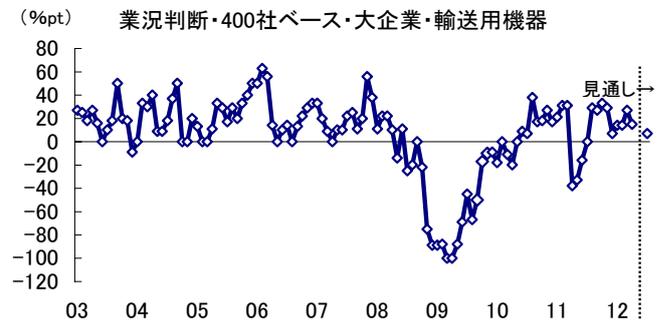
(出所)ロイター「ロイター短観」



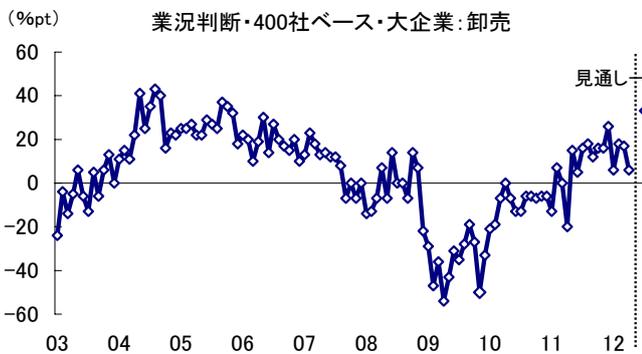
(出所)ロイター「ロイター短観」



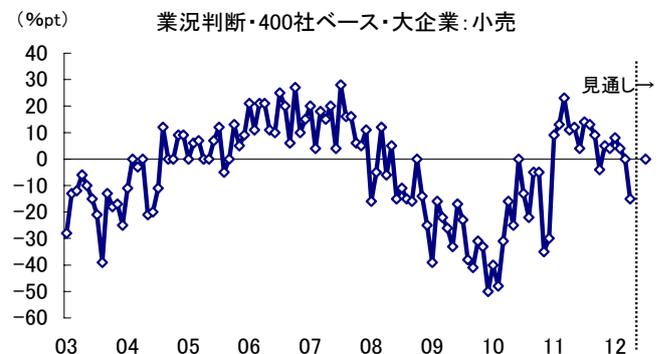
(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」